

1月例会 『汽車はふたたび故郷へ』

新年おめでとうございます

新年を迎え会員みなさまには、ご健勝とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

一昨年は東日本大震災や各地の豪雨被害など大きな出来事がありました。その年と比べれば昨年は穏やかな年であったと感じています。その中でも、何か大事なことを忘れていた年でもあったようです。

映画は、娯楽であるとともに知らない世界を観ることのできる媒体です。本の世界ともよく似ています。受け手の心持ちで名作も駄作も楽しむこともできます。今年も映画を楽しみましょう。

一方で、映画のデジタル化のため、自主上映会で上映できる作品の数が大きく減ってくるなど、この会にも大きな影響が出てきています。また、少し持ち直した会員数も減少傾向になりつつあります。この会にも、課題はありますが、ひとつひとつ知恵を出して対応していきたいと思ひます。どうぞご協力くださいますようお願いいたします。

例会のお知らせ

■名称／第64回例会 『汽車はふたたび故郷へ』

■日時／2013年1月23日(水) ①PM1:50～、
②PM4:10～、③PM6:30～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■タイトル／汽車はふたたび故郷へ

■監督・脚本／オタル・イオセリアーニ

■出演／ダト・タリエラシュヴィリ、ビュル・オジエ、ピエール・エテックス

■データ／2010年、フランス・グルジア・ロシア、2時間6分、ブルーレイ

■ジャンル／ヒューマンドラマ



■解説／旧ソ連の一共和国だった頃のグルジア。牧歌的な少年時代を過ごしたニコは、やがて夢をかなえて映画監督になった。だが、苦労を重ねた結果ようやく完成したニコの映画は検閲によって「上映禁止」と判定されてしまう。ある日、フランスから大使がやってきた。ニコは友人の手引きで、大使の滞在先を訪れる。盗聴に気を配りつつ会談するニコたちだったが、その一部始終は何者かによって監視されていた。投獄され、暴行を受けるニコ。祖父母が用意してくれた賄賂代わりのワインを片手に、ニコが政府高官のもとへ出向くと、高官は遠慮がちに出国を勧めるのだった。

このままここにいても、ほんとうに作りたい映画を作ることは出来ない。ニコは、生まれ育ったグルジアを離れ、フランスへ旅立つ決心をした。

自由をもとめてフランス・パリにやってきたニコ。幸いにもプロデューサーに作品を気に入られ、ニコは彼らの出資をもとに映画制作に取り掛かる。

だが、撮影所でニコを待ち受けていたのは、映画に商業性を求めるプロデューサーとの闘いだった。「独創性が強すぎる」「映画は90分を越えてはならん」

ニコは自分が作りたい映画を作ることが出来る

のだろうか？（公式サイト「ストーリー」から）

■感想／『月曜日に乾杯！』『ここに幸あり』のグルジアの巨匠オタル・イオセリアーニ監督が、自身の実人生を投影した青年映画監督を主人公に描く半自伝的コメディドラマ。

自伝映画は、主人公を正当化してちょっとカッコ良く作ろうとしていることと、若いころの恨みを盛り込もうとするところが、少し気になりますが、前回の現代のキルギスをテーマにしたものに続き、旧ソビエト連邦時代の検閲や規制、そしてグルジアのようすを知ることができるところは興味深い。（宮本）

今思うことー映画のデジタル化の功罪ー

いつの間にか映画のデジタル化が進んでいた。上映される素材が従来の35mmフィルムから、DCP (Digital Cinema Package) と呼ばれる上映用のデータファイルに変更されているのだ。

少し前までは、35mmフィルム映画が次第に無くなっていくと考えていた。そう考えていたらアツと言う間にフィルム映画が無くなった。

撮影する側から言えば、使いにくいカメラやフィルムと違って比較的簡単なカメラで安価に撮影できるようになり、編集する側も編集が便利になった。観る側も明るくシャープな映像を確実に観ることができるようになった。旧来の機器が使えなくなったことや、ノスタルジーを味わえないことを除けば良い点が多い。

ただし、撮影技術の退化や、撮影の緊張感の減退は危惧されている。

そんなことより映画のデジタル化は、加古川シネマクラブの例会に大きな影響があったのです。こここのところ、「選んだ作品を上映できない」ことが続いているのである。先に説明したDCPの専用上映機械でないと上映してはいけない作品が増えてしまっていたのです。邦画や配給元によっては、フィルムでなくDVDやブルーレイを使用しての上映を認めているのですが、洋画の多くは、DCP以外の上映は認めない契約になっているそうで作品によっては、上映会を行うことに支障が出てきています。DCPが小規模映画館に影響が大きいというニュースを他人ごとのように聞いていたら、アツと言う間にこの会の活動に影響が出てくるとは、トホホ。（ハインリッヒ）

忘年会の報告

12月18日(火)、運営委員を中心とした年末恒例の忘年会を加古川駅北の「おおにし」で行いました。折からの寒波のためJR山陽線が40分以上遅れたこともあり、はじめが無いまま始まりました。

昨年度と同様明石シネマクラブからも3名の参加があり、12名で2011年の個人的な出来事や映画について話し合うなどおいしい料理と楽しい時間を過ごしました。

しかし、恒例の「忘年会で選んだ2011年映画10選」を選ばないまま終わってしまったのです。全体に寛ぎ過ぎていました。お正月のレンタルビデオ選びにたいへん参考になっていただけに残念です。

前回例会の報告

11月20日の例会では、中央アジアのキルギスの『明りを灯す人』を鑑賞しました。天山山脈のふもとイシク・クル湖のほとりのキルギスの小さな村の電気工の男を中心に、村の中で起こる、近代化、利権や汚職、窃盗、中国資本による開発、昔からの暮らしなど、さまざまなテーマや問題を散りばめていた作品。ハリウッド映画のように完成度の高い映像でもなく、盛り上がりもなく少しわかりにくいところもありましたが、ふだん観ることのない国の映画であり、風景の美しさなどの満足感はあった。

観終わった人からは、「意味の分かりにくい表現があったが、キルギスの社会や映画の表現のことがわかっていればその意味がわかったでしょう」、「最後のシーンがあまりに悲しかったがあれが現実なのでしょう」などの意見がありました。

参加会員114人とやや少なかった。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数 179 人(11月20日現在)